

つるおか新図書館基本構想企画懇話会 第3回議事概要

1 会議概要

- (1) 日 時：令和7年2月5日（水）15：00～17：30
- (2) 場 所：鶴岡市立図書館 講座室
- (3) 出席者：略

2 会議次第

- (1) 開 会
- (2) あいさつ 市長、教育長
- (3) 議 題
 - ①基本構想案について
 - ②その他
- (4) コメント
- (5) 閉会

3 発言要旨

（副市長）

これまでの話から学び、出会い、居場所、子ども、郷土資料という5つのキーワードを抽出している。キーワードを文章化したものが11ページ目となっている。事前の書面協議を経て、いただいたご意見がこの案に反映されているか、あるいはニュアンスの違いなど、一つ一つ確認しながら進めさせていただきたい。

それでは、この基本理念6の基本的な機能、7の整備方針について協議をお願いしたい。

（図書館長）

基本理念について、居場所や市民共創といった視点をもっと入れてはどうか、というご意見を多くいただいている。基本理念については、現段階では検討中とさせていただいている。

本日の協議の中で皆様からご意見を頂戴したい。例えば基本理念に入れるべき言葉、こんなキーワードを入れてほしい。今出ているものとしては、市民が育てる図書館、それから、例えばあらゆる人を受け入れる居場所といった視点が、理念にまだ不足していたのではと感じている。

居場所について特に元気な方ばかりが行く図書館ではないだろうといったご指摘、様々な方々も平等に受け入れて居場所になる、そういった視点も大事なんじゃないかといったご意見をいただいている。また、「ひとりで」と「みんなで」の二方向の設定が必要なのではないか、といったご意見もあった。これらを踏まえ、居場所について「誰でも気軽に立ち寄り、居心地よく過ごせる場所になることを目指します。」という文章を先に記載する形で修正している。

また、「学び」と「出会い」は連動するキーワードだが、「出会いや学びを育む空間づくりも大切にしていきます。」という文言に修正した。

子どもについては、郷土教育や読書活動で個性を尊重した学び方というニュアンスを強調した。

郷土資料については、鶴岡の歴史と文化をつなぎ高める、地域の資料を収集し、活用する、これに、「発信していく」という視点が足りないのではとご意見をいただき、修正を加えている。

基本構想の中で大事な骨格となる部分となるため、改めてご協議させていただきたい。

（副市長）

この場では理念を決めるというよりは、原案にどういったものを加えたらいいかという発想で言葉を補っていききたい。

(委員)

「育てる」と言ったときに、図書館が育てるというよりは、自分で自分を育て、自分育てをやりながら、人との関わり合いを深めていく、ということが地域の特性だと考えている。自分の育つ力を養っていきけるような図書館であればいいなと感じている。

基本理念で一番ひっかかったのが「知識」である。スマホなどで検索は容易になってきたが、検索した部分しか見ない、一方的に自分から見る場面が多くなってしまっていることに懸念を持っている。もっと総括的に検索できることが大切なのではないか。思いやり、あるいは想像力が働かない状況になってきているんじゃないかなと感じている。知識という言葉よりも、知恵という言葉が適切なのではと感じた。

同時に、「ふるさと」という言葉を入れたい。ふるさとを持っている人は強みがあると私は思っている。心のふるさとを図書館活動の中で養ってってもらいたい、という思いを込めたい。

(委員)

私は東山委員の考え方に非常に触発されたが、関連して発言させていただきたい。

学ぶ・出会う・育つを、育つではなく、交流という言葉にしてはどうか。出会って、人と人と触れ合って、交流するということが大事で、端的にその3つを並べたい。居場所と子どもと郷土をつくるというのはすばらしいと感じた。

その後に続く「鶴岡の学び」という言葉が、学びが鶴岡に限定されてしまうような印象を受けた。私は学びと出会い、ここをカットしてもいいのではと感じた。

図書館はいろんな面で学びの場なので、自己啓発、自己成長は大事だと思うが、様々な方が集える居場所としての「集い」という言葉を大事にしたいと思った。鶴岡の誰もが集い、そしてその後は知恵、知識よりも知恵とか徳、愛を深めるという綴り方がいいと思った。

(副市長)

ここでまとめていくよりは、考えを出していただいて、事務局で検証していきたい。検証する中で、可能であればこの5つの基本方針を変えずに言葉を補う、あるいは追加するような形で進めていきたいと考えている。

(委員)

「鶴岡」をつけた意味は、観光で来られた方もこの鶴岡で学んでもらいたいという思いを持っている。地元の方はもちろん、鶴岡でともに学び、出会いという意味を含めたい。

(委員)

「育てる図書館」を入れたらどうかというのは、何でも行政が整備するのではなく、みんなで図書館をいいものにしていく、育てていくという意識を持つ必要があると感じたからである。

(委員)

図書館で何をするか、何をしてほしいのかというところで、「体験」があると思う。例えば、本に親しむ体験、本を借りる体験、新しい図書館を知る体験、学ぶ体験など、いろいろな体験があると思うが体験をすることで、さらにもう半歩前に扉が開くと思った。体験が最近すごくおろそかな日常が多いと感じているので、あえて言葉にしたら目にとまるんじゃないか考えた。

(館長)

利用者、来館者の視点として非常に重要だと思う。図書館で何をするか、どう使っていくかが体験につながっていくという流れになると感じている。リード文のところに加えるようにする。

(市長)

特に「主体性」が重要であり、教育の観点でも「自立」より「主体性」が重視されている。子ど

もも大人も新しいことに挑戦する際、主体性を持つことが大切であり、その視点を明確にすべき。文言の重複を省きながらまとめる必要がある。

(委員)

まちづくりや人づくりにおいて、他人任せにするのではなく、自分自身が主体的に取り組むことが重要。自分が成長することで、初めて他の人と協力して物事を進めることができるようになる。自分を育てながら他人と関わっていくという視点が必要なのではないか。

(委員)

基本理念にどれくらい文言を入れるかが重要だ。説明調だと印象に残りにくいため、潔さを考慮する必要がある。皆さんの意見を参考にしながら、「鶴岡で学び、鶴岡で出会い、鶴岡で育む」という3つと、「みんなでつくるふるさと」というフレーズを提案する。

基本構想案を見たときに、懇話会での意見や図書館ミーティングでの意見も丁寧に反映されていると感じたが、鶴岡の郷土資料や文化を継承していきたい、継承していったほしい、という気持ちを基本理念だけでなく、キーワードや基本方針全体を通して理解してもらうことが重要だと思う。

郷土という言葉を使うと堅い気がして、ふるさとの方が広い意味でとらえられると考えている。ふるさとは平仮名のほうが馴染むのではないか。育つがいいか、育むがいいかは悩んでいる。

(委員)

皆さまの意見を聞かせていただいて、伝わりやすい形でまとまっているので、共感しているが、ちょっと硬い印象を受ける。学びは遊びから生まれると考えているため、「遊び」というキーワードを入れることを提案する。また、主体性を持ってもらうという意味を込めて、「創造」という言葉も加えると良いと感じた。

(図書館長)

皆様からいろいろな意見をいただき、大変ありがたい。特に森木委員の「鶴岡で学び、鶴岡で出会い、鶴岡で育む（または育つ）。みんなでつくるふるさと」というフレーズには共感したし、私自身、遊びという視点には思い至らなかったが、図書館ならではの視点として非常に興味深いと感じた。学びは遊びから生まれるという意見には共感するため、これをどう取り入れるかが今後の課題だが、大事にしていきたい。

(委員)

図書館の役割として、「みんなでつくるふるさと」という形だと、すべてが図書館に限定されてしまうとを感じる。図書館だからこそ「知」という言葉を入れたいが、単なる知識ではなく、生活に根ざした「知」と地域を結びつけることが重要ではないだろうか。

また、心を育てることが大切であり、「徳」という言葉に代わる若い人にも伝わりやすいキャッチーな言葉があれば良いと思う。「思いやりの心」という意味を伝えたい。

(山崎アドバイザー)

基本理念は「学び、出会い、コミュニケーション」を基本に設定されている。基本理念としてはさまざまな言葉を含める必要がある。説明的になりがちだが、キャッチフレーズはシンプルで市民にわかりやすいイメージを作るべきだ。

情報を整理すると知識になり、知識を活用すると知恵になり、昇華すると徳になる。図書館は知識の塊であり、知恵まで昇華する役割を担うが、徳まで昇華するのは難しいかもしれない。知という言葉は使いやすく、短くすることをお勧めする。具体的なやり方は別に文章化するべきだ

(市長)

「鶴岡で学び、鶴岡で出会い、鶴岡で育む」という考え方は、およそ整理がついたのではないか。

山崎アドバイザーが整理してくださった、情報、知識、知恵、徳の概念や、酒井委員の「みんなでつくる」という考えも踏まえて、「知を深める公共図書館」という表現が適しているのではないだろうか。公共図書館として知を深める役割を強調することが重要だ。

参考に、市の総合計画の基本理念に「みんなが暮らしやすい創造と伝統」、キャッチコピーとして「毎日おいしい、ここで暮らしたい」がある。市全体でこの理念を共有し実現を目指している。

(山崎アドバイザー)

図書館の基本構想なので、「ふるさと」という言葉は少し大げさかもしれない。

(図書館長)

遊びと創造というニュアンスは、リード文のところに組み込んでいければと思うし、それから先のページの中でも学びといったキーワードの中に少し追記を考えていきたいと思う。

(委員)

森本委員のフレーズは、小学校高学年でも分かりやすく、口ずさめる点が良いと感じる。「みんなで作るふるさと」が良いと思う。例えば、今回リレー企画として、食文化を取り上げるとのことだが、黒川能のような芸能を取り上げてみてもいいし、色んな角度から地域のまちづくりに図書館が貢献し、ふるさとをつくるという願いを込めたい。「知恵を深める公共図書館」という言葉は少し堅いように感じる。

(委員)

「みんなで作る知のふるさと」という表現はどうか。図書館の基本構想なので、「図書館」という言葉は入れなくても伝わるのではないか。小学生でも理解しやすい言葉で表現することが重要だ。総合計画を使った勉強や課題で、子供に分かりやすく説明しなければならなかった経験があるため、みんながわかる優しい言葉で表現することが大切だと感じている。

(副市長)

時間の都合上、「知のふるさと」という言葉を仮置きさせていただいて、一度次の議題に移り、また最後に改めて議論させていただきたい。次に図書館としての基本的な機能について。

(図書館長)

冊子の13ページ、14ページ、および横版の4ページでは、基本理念とキーワードに基づく基本方針を受けて、図書館で必要なサービスや機能をまとめている。新たに加える機能には◎を付けて紹介している。

14ページでは、鶴岡市の図書館の特色と方向性を示していて、五つの分館では地域に寄り添ったサービスの継続や地域独自の資料収集の窓口についても触れている。移動図書館については、図書館に来ることが難しい方へのサービスや、オンラインサービスとの組み合わせ、巡回地との新たな連携について記載している。郷土資料館のあり方については、資料の相互利用や利用者からの問い合わせ対応のメリットを生かし、資料館としての役割を強調している。市民や研究者、観光客に対して郷土資料館の歴史や文化をPRする場所でありたいとまとめた。基本的機能を支え、拡張する機能については、図書館と市役所の業務の相乗効果を期待し、学校教育の視点も追記している。

(委員)

家族と家庭の言葉遣いに違和感があり、どういう意図があるのか確認したが、家族であれ家庭であれ、いろんな人が子育てにかかわるため、子育てという言葉遣いに見直していただいたのは妥当だと思っている。

(委員)

居場所に関して、飲食ができるスペースが必要だが、立派なレストランである必要はない。空間としての居場所を提供することが重要であり、飲食店でじっくり食事をするというよりも、気軽に利用できるスペースが必要だと思う。

(図書館長)

構想段階では具体的な書き方はしていないが、これまでの図書館の「飲んだり食べたりしては怒られる」というイメージから脱却し、これからの新しい図書館は違う方向性を打ち出していきたいという意図でまとめている。

(古川アドバイザー)

飲食について、館内ではスクリー式キャップの飲み物は持ち込める館が最近増えている、使用などを考慮している。図書館内でも限られたスペースで食事ができるように提案しており、実現は難しいと思う。

(副市長)

それから産直コーナーを設けて出会いの場を提供してはどうか、という意見もあるので、この意見も取り込んでいきたい。

(委員)

郷土資料館のあり方について、展示紹介する機能を設けるという文言を「展示スペースを設けます」と明確にすることを提案する。郷土資料館を訪れる人々に対して展示の重要性を強調できる。

12 ページのキーワードについては、図書館の役割を示すものとして、「豊富な資料や情報を収集し、発信もしくは提供する」という表現を追加することを提案する。また、「資料を収集し、守り、活用する」という文言を「資料を収集し、保存し、活用する」と「保存する」という積極的な表現に変更することを提案する。

(図書館長)

ご意見を取り入れる形で修正を図っていく。

(委員)

14 ページ 4 の項目について、新しい図書館に多くの機能を設けるという意味に見えた。市街地には既にコミュニティーセンターや子育て支援施設、健康増進施設があるため、これらの施設との連携を深めるべきだと考える。図書館に多くの機能を持たせるのではなく、既存の施設と連携し、潤滑油のような役割を果たす窓口を設けることが重要だと感じている。

(図書館長)

病院や市役所からのパンフレットを図書館に置いているが、PR が不足していると感じている。図書館は市民の課題に直結する情報を提供し、専門機関につなぐ窓口としての役割を強化したい。図書館がすべての機能を引き受けるのではなく、拡張する機能として情報提供と連携を重視するという意図を込めている。

(委員)

阿部委員の意見に賛同し、既存の施設を充実させることが重要だと感じる。図書館は市民が求める情報を発信する基地としての役割を担うべきだ。身近な資料をまとめて提供することで、市民の学びを深めることができる。新しい図書館は、現実の問題と本を結びつけ、ふるさと回帰につながる役割を果たすべきだ。各部門が主体的に発信し、図書館と連携することで、新しい図書館の魅力が増すのではないかと。

(市長)

具体的な趣旨や取り組みを明確にする必要があるのではないかと。当たり前の曖昧な内容ではなくて、もっと掘り下げるべきだ。具体的なスケジュールを立て、重点的に取り組む内容や連携先を真剣に考えることが重要だと感じている。

(委員)

「基本的機能を支える、拡張する機能」という言葉が分かりづらいと思う。市民生活の情報発信基地とか、もっと分かり易くした方がよいのでは。

(委員)

少し話が変わってしまうが、本をデータのようなものに置き換えて、新しい最新の情報に更新できる状態にする方がよいと思う。健康などの分野は特に日進月歩で情報が更新されるため、必ずしも資料が本である必要はない。

(図書館長)

これからもう具体化していく必要があるが、現段階では、想定される候補を挙げさせていただいているということでご理解いただきたい。

(市長)

抽象的な概念ではなく、図書館で行っている具体的な例を示し、それを継続・見直す視点や具体的な取り組みを示すことが重要である。事務局側で整理して、必要なことを明確にすればよい。

(委員)

図書館が今後、さまざまな部署と連携していくことが重要である。郷土資料館の運営委員会でも図書館がハブとなり、他の施設と共同企画や依頼を行うことが求められている。これが情報発信の方向性であり、図書館リレー企画にも反映されていると認識している。市民や文化財に関わる方々も連携して一緒に盛り上げていこうという意識が強い。この意識を理解し、まとめていけば分かり易くなると思う。

(古川アドバイザー)

由利本荘市を例にあげると、図書館と関係各課が連携し、市民の日常生活の課題解決に取り組んできたという経緯がある。図書館としての取り組みの一環であり、市民生活のさまざまな問題に対応している。図書館が市民を支える役割を担っているということが、4番目のテーマに関連するのではないかと。

(副市長)

住民生活と図書館が支える課題は多岐にわたる。図書館は各課と連携し、力を発揮して支えていく必要がある。連携と情報発信を通じて、地域のニーズに応え、既存のハブとして機能することが求められる。図書館機能として、これらのつながりを持てるようにすることが重要だということが伝わるように事務局側でまとめていくこととする。

そででは 15 ページ整備方針以降の議題に移ることとする。

(図書館長)

建物の必要面積のほか、移動手段と駐車場について、事業用地選定について、事業用地の選定基準、運営体制について、事業スケジュールについて、今後の検討課題について記載している。

(委員)

事業用地について、緑豊かということは鶴岡公園周辺なのかなと思って確認をした。鶴岡の中心市街地は広いため、駅前と公園周辺では大きく異なるが、できれば緑の豊かなところで、天気がいいときには、外で落ち葉を拾いながら読み聞かせができるようなところにしていただきたい。

(委員)

私も子育て時代には図書館周辺の自然の中で過ごしてきたという想いがある。これまで出た様々な意見を集約すると、だいたいこの辺りが適しているのかな？といったイメージは持っているが、重ねてきた議論や皆さんの思いが伝わるのではと思っている。

(委員)

新図書館建設時には、植栽が重要だと思うが、鶴岡に由来し、この土地に相性の良い木を優先的に植えることが望ましい。ふるさとの山で育った木を植えることで、市民も受け入れやすくなると考える

(図書館長)

市川委員よりメールでいただいた伝言を三点紹介させていただきたい。

一つ目が、中心市街地に建設するのであれば、なによりも立地が重要であるということ。二つ目が、日常使いができる施設として、カフェや産直など、観光客も立ち寄れる場所にするなど、本を借りなくても人々が足を運べる仕掛けが必要ということ。三つ目が、会話が許容される空間、親子が来やすい環境にすることが大事であるということ。

(委員)

緑が多いから立地を選ぶのではなくて、最適な場所を決めて緑豊かにする考え方が必要。湯布院や明治神宮のように、みんなで森を育てることが大切だと考える。訪れやすい場所を緑にしていこうという考え方。

(委員)

施設整備の考え方について、建物の規模と駐車場だけでなく、どういう建物にするのかという大枠も含めるべきであるのではないかと（特に使い勝手やメンテナンスの問題）。利用者や運営者にとって使い勝手が重要であり、メンテナンス費用も考慮するべきである。建てっぱなしにせず、外枠をしっかりと固めることが必要ではないかと感じた。

(山崎アドバイザー)

具体的には基本計画で示されることが一般的だが、大きい建物を作ることが目的ではないため、効率的で使いやすい建物を、といった記述もあったほうが良いかもしれない。

(委員)

事業スケジュールの項はハード面が中心に書かれているが、ソフト面や運営体制が重要なのではないかと。公的資金と民間の設計運営を組み合わせる方法もあるようだ。事業費や維持運営費用を考慮し、限られた予算内で何を優先するかを検討する必要がある。箱物ができた後の運営体制や予算の裏付けも重要であり、一緒に考えていくことが望ましい。

(副市長)

市川委員から、市民の意見を反映する場を設け、市民が常に意見を言える仕組みが重要であるとの意見があった。図書館活動を支える市民の多様な参加の形を大切に、基本計画以降で明確にしていく。また、敷地や駐車場だけでなく、規模やメンテナンス費用も一体的に考える必要がある。構想段階では詳細を詰めるのは難しいと考える。

(委員)

図書館で重要なことはゾーニングだと思う。機能的にできれば、子ども連れでも快適に利用できる。運営体制では、専門職の育成と活用が非常に重要である。学芸員や図書館司書の専門資格を持つ方々に発信を担っていただきたいし、育成も期待したい。

(副市長)

人材に関しては、市川委員からも市民図書館サポーターを活用してはどうかといった意見もいただいている。

(図書館長)

1月20日に由利本庄市の図書館を見学させていただいた他、様々な図書館のゾーニングについて勉強しているところ。子どもエリアや静かにしてほしいエリアの分け方は敷地条件やそれによって建物の規模に連動して決まる。それぞれの自治体で異なる考え方があり、ゾーニングの重要性は認識している。今後も皆様の協力を得ながら、ゾーニングを大切に考えていきたい。

(市長)

基本構想には、決まったことを盛り込むだけでなく、これから策定する基本計画に送ることが重要である。建物の規模だけでなく、ゾーニングやサステナブルな要素も含めるべきである。公共建築物のZEB化が進められており、これらの要素を盛り込むことで、建物の規模だけでなく、持続可能性も考慮する必要がある。また、人材育成についても検討する必要がある。スケジュールはハード面だけでなく、ソフト面も書き込むべきである。管理人材育成の方針を検討し、次の基本計画の段階で確実に検討漏れがないようにすることが重要である。

(副市長)

最後に改めて「鶴岡で学び、鶴岡で出会い、鶴岡で育つ、みんなでつくる知のふるさと」というフレーズについて、皆さんの意見を再度求めたい。座長としては非常にじっくりくると感じているが、言葉を変える場合のアイデアも聞かせていただきたい。

(委員)

現段階で知のふるさととして、私は図書館をイメージできないが、これを市民皆さんの共通のイメージになるようなワードに育て続けていくのであればよいと思う。

(委員)

「鶴岡で」というフレーズが繰り返されると、図書館の役割と一致しないように感じてしまう。図書館は個人が学びたい、本を読みたい、本を借りたいから来る場所であり、教育理念ならいいのかもしれないが。。

(市長)

基本理念は「学び、出会い、育つ、みんなでつくる つるおか図書館」とし、本日議論で出たその他のフレーズは前文で整理していく方針としたい。

(委員)

郷土資料館の資料を史料に変更し、考古資料や民俗資料を扱う他の資料館と差別化することを提案したい。

(教育部長)

基本構想の段階で、名称を決めてしまうというよりは、図書館の名称や愛称も含めて、検討してい

きたいと考えている。

（副市長）

皆さんからいただいた意見を元に基本構想案を修正しくのでご承知おきいただきたい。

（市長）

本日いただいた様々のご意見、最後に酒井委員よりいただいたご意見も含めて、次の計画段階にしっかり送ればよいと思う。

（古川アドバイザー）

皆さんからの意見や要望が、新しい建物の意思表示になっていくと思う。そういった意味では、基本構想に挙げられた言葉は非常に重要であることから、今後に注目していきたい。

（山崎アドバイザー）

基本構想は迷ったときの判断材料、原点となるべきもの。具体的なことは基本計画以降で進めていくことになる。そういった意味では、基本構想は出発点到過ぎず、これからも基本計画、設計、オープンと続いていく。オープンは終着駅ではなく、職員や市民、地域の力を合わせて借りて長期的に運営していかなければならない。そういった意味でも、「共創」という概念は重要で、理念にも盛り込むべきではないかと思う。